

緊急特別連載(全3回)

withコロナ時代の歯科医療

第3回(最終回) : withコロナ時代に求められる
歯科医療の転換のカタチ

丸尾勝一郎

東京都開業 三軒茶屋マルオ歯科
連絡先: 〒154-0004 東京都世田谷区太子堂4-23-15 2F

Dental Care in the Era of "with Corona"
Part3. Transformation of Dental Care in the Era of "with Corona"

Katsuichiro Maruo

キーワード: 新型コロナウイルス感染症, COVID-19, SARS-CoV-2

※本稿は2020年7月9日
に執筆されたものです。



はじめに

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)はいまだ
解明されていない点が多く、ワクチンの開発も治験
段階に入っているものの、十分な有効性の確立には
まだ至っていない。多くの国において経済活動が再
開される一方で、いわゆる第二波が訪れ、新規の感
染者数は増加傾向にあるようだ。しかしながら、重
症化する患者数や死亡者数は一時期のピーク時と比
較すると、かなりの減少傾向にある。しかし、ワク
チンや特効薬が開発されCOVID-19による重症化や
死亡者が完全になるまでは、しばらく感染対策
をしながら生活続ける“withコロナ時代”が続くこ
とが予想される。

連載最終回となる今回は、このコロナ禍で人々の

意識はどのように変わり、それに対して私たち歯科
医療はどのような対応・転換をしていくべきなのか、
検討してみたい。

1. 「コロナ」による生活の変化

新型コロナウイルスの登場は、すべての人間に
とってあまりに想定外な脅威であり、誰もが今まで
に体験したことがないような状況に見舞われた。

個人レベルでは、外出規制によりさまざまな行動
において自粛を強いられ、“STAY HOME”を合言葉
に、家に滞在する時間が非常に長くなった。

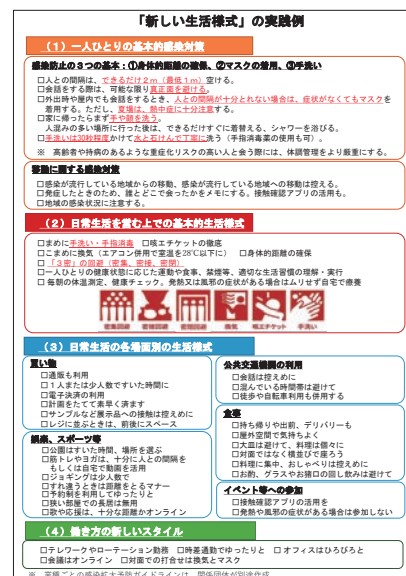
日本人は世界的にも早期の段階でマスクを着用し、
手洗い・うがいを励行し、人から人への感染防御に
対する意識が諸外国と比較して高かった。密集を避

【連載一覧】

第1回: COVID-19の概要とアンケート結果からわかる歯科医院の日本における対応の現状

第2回: 歯科医院を取り巻くCOVID-19感染状況とその対策の実態

▶ 第3回: withコロナ時代に求められる歯科医療の転換のカタチ



などで、人が密集する業態は軒並み休業を余儀なくされた。2019年11月に発刊された『2025年，人は「買い物」をしなくなる』（望月智之著，クロスメディア・パブリッシング）によると，2025年には購買行動のほとんどがインターネット通販または月額定額で使い放題のサブスクリプションモデルに移行し，必要なものは考えなくてもAIが勝手にレコメンドしてくれるようになることが示唆されている。一方で，インターネット購入では代替のきかない体験型店舗・ビジネスだけが生き残り，と予想されていた。しかし，ウイルスという未知の脅威の登場により，生き残るはずの体験型店舗・ビジネスがもっとも打撃を受けたことは，非常に衝撃的であり皮肉な結果であったように思う。しかし，一方でインターネット通販という購買行動への移行は加速されたといえるだろう。

3. 非接触志向の継続

the Quintessence. Vol.39 No.9/2020—2142

◎当院における感染対策の一部



図 2

図 3

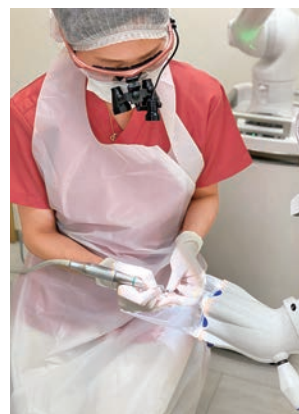
図 4 a | 図 4 b



図 2 滅菌パックに入った器具。患者 1 名ごとに、それぞれ個別包装・滅菌された器具を使用することが推奨される。

図 3 ディスポーザブルの器具。できる限りディスポーザブルの器具や材料の使用が推奨される。

図 4 a, b 当院で使用している口腔外バキューム(フリーアーム・アルテオ-S, 東京技研)。口腔外バキュームは今後需要が高まることが予想される。



接触志向は今後も続いていくことが予想される。電車の吊り革に触れないために、マイ吊り革がインターネットでは人気商品となっていたり、貨幣に触りたくないという意識からスマートフォンなどによるキャッシュレス決済を導入したりする人が増加している。

近年では、活用していない資産を共有・交換して利用するシェアリングエコノミーが注目を集めていたが、カーシェア・民泊・服や日用品のシェアリングサービスなどについては、しばらく厳しい状況が続くと考えられる。一方、Uber Eats を筆頭に空き時間を利用して出前をシェアするサービスなどは一気に需要が高まった。また、オンラインでできる英会話やヨガなど、スキルをシェアし、レクチャーする業態も需要が高まっている。

歯科医院においては、前号でも述べたように、待合室の雑誌や子ども向けの玩具などの共有物は今後

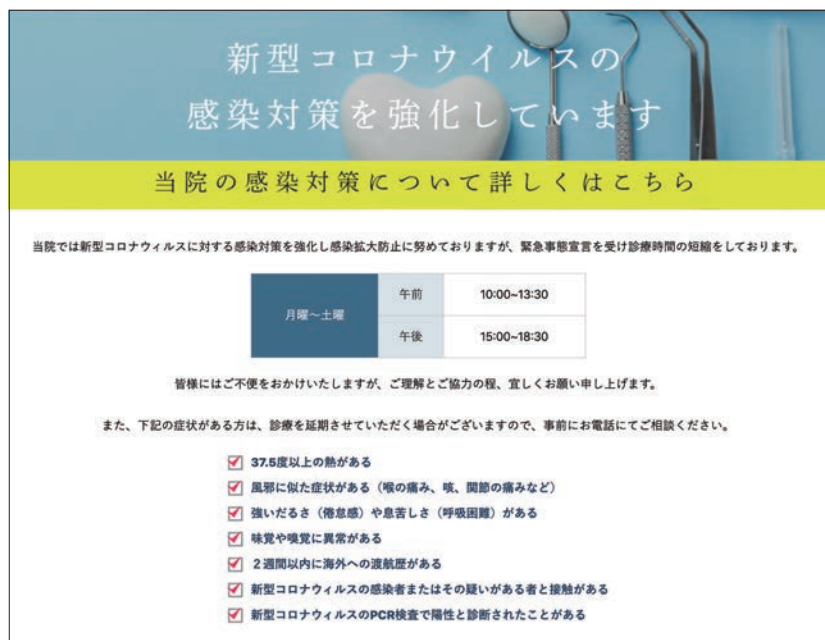
も撤去を継続することが望ましいだろう。また、器具についてはできる限りディスポーザブルのものにするか、患者ごとに滅菌することが強く推奨される。診療ユニットのワーキングテーブルの上にワッテ缶・薬瓶・バースタンドを常時設置しているクリニックもあるが、できれば撤去し、患者ごとに滅菌されたものを滅菌パックから取り出して使用することが望ましい。またレジンやセメントなど共有せざるをえないものについては、アルコール消毒を徹底し、院内感染の防御に努めることが重要である。また飛沫感染への対策として、クラスb滅菌器や口腔外バキュームなどの導入は、今後より一層ニーズが高まることが予想される(図 2～4)。



4. デジタル化の加速

非接触志向が継続することにより、デジタル化も

◎新型コロナウイルスに対する感染対策の提示



新型コロナウイルスの
感染対策を強化しています

当院の感染対策について詳しくはこちら

当院では新型コロナウイルスに対する感染対策を強化し感染拡大防止に努めておりますが、緊急事態宣言を受け診療時間の短縮をしております。

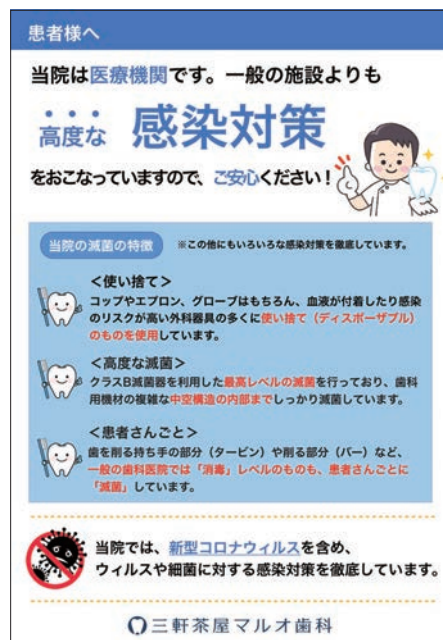
月曜～土曜	午前	10:00～13:30
	午後	15:00～18:30

皆様にはご不便をおかけいたしますが、ご理解とご協力の程、宜しくお願い申し上げます。

また、下記の症状がある方は、診療を延期させていただく場合がございますので、事前にお電話にてご相談ください。

- ☒ 37.5度以上の熱がある
- ☒ 風邪に似た症状がある（喉の痛み、咳、関節の痛みなど）
- ☒ 強いだるさ（倦怠感）や息苦しさ（呼吸困難）がある
- ☒ 味覚や嗅覚に異常がある
- ☒ 2週間以内に海外への渡航歴がある
- ☒ 新型コロナウイルスの感染者またはその疑いがある者と接触がある
- ☒ 新型コロナウイルスのPCR検査で陽性と診断されたことがある

図5 当院のホームページではTOPページに感染対策についてのリンクページを設置している。



患者様へ

当院は医療機関です。一般の施設よりも
高度な感染対策
をおこなっていますので、ご安心ください！

当院の減菌の特徴 ※この他にもいろいろな感染対策を徹底しています。

- <使い捨て>
コップやエプロン、グローブはもちろん、血液が付着したり感染のリスクが高い外科器具の多くに**使い捨て（ディスposable）**のものを使用しています。
- <高度な減菌>
クラスB滅菌器を利用した**最高レベルの減菌**を行っており、歯科用機材の複雑な中空構造の内部までしっかり減菌しています。
- <患者さんごと>
歯を削る持ち手の部分（タービン）や削る部分（バー）など、一般の歯科医院では「消毒」レベルのものも、患者さんごとに「**減菌**」しています。

当院では、**新型コロナウイルス**を含め、ウイルスや細菌に対する感染対策を徹底しています。

三軒茶屋マルオ歯科

図6 当院内で掲示している感染対策のポスター。

加速していくことが予想される。もっとも使用頻度が高い接触共有物は「貨幣」である。したがって、すでに導入が進んでいたキャッシュレス決済の普及にはさらなる拍車がかかることが予想される。当院でも、1社だけではあるがキャッシュレス決済を導入しており、最近では1日の来院患者数のうち1～2割がこのキャッシュレス決済で会計を済ませている。おそらく、決済会社を増やせば、さらに利用者数は増えるだろう。

また、厚生労働省は3月4日に「歯科診療における新型コロナウイルス感染症患者の増加に際しての電話や情報通信機器を用いた診療や処方箋の取扱いについて（現在は「歯科診療における新型コロナウイルス感染症の拡大に際しての電話や情報通信機器を用いた診療等の時限的・特例的な取扱いについて」に名称変更）」として、いわゆる電話またはインターネットを介したオンライン診療の規制が緩和されている状態だ。誌面の都合で詳細について解説することはできないが、事前に予約を受け、オンラインにて問診・診断を行い、状況に応じてFAXにて処方箋を発行す

るといのが大まかな流れとなっている。今後、急な痛みをとまなうような症状については、オンライン診断による処方箋発行が一般的になる可能性も十分にあるかもしれない。

院内における医療従事者間の感染予防として、口腔内スキャナを用いた印象採得では従来法のように唾液の付着した印象材を扱う必要がなくなるため、今後保険導入されれば一気に普及する可能性もあるかもしれない。

5. 感染対策への意識の高まり

いつ自分が感染するかわからない状況で、手指消毒やうがいやインフルエンザの季節だけ励行するものではなく、日常生活の一部となった。自分でアルコール消毒剤やウェットティッシュなどを持ち歩き、他人の接触部位を清拭してから使用するなど、衛生面を気にかける人も増加している。本誌7月号の高屋翔先生らの論文³において、「新型コロナウイルス収束後、歯科医院を選ぶにあたり重要視する点」と

表1 withコロナ時代に生まれることが予想される歯科医療へのニーズの変化

患者が減っていくと予想される領域	残る、または患者が増えていくと予想される領域
う蝕	訪問診療
歯周病	矯正歯科
欠損補綴	口腔外科
小児歯科	インプラント治療
-	審美を目的とした修復治療

いうアンケートへの回答として、「感染対策をきちりしている」がもっとも多かった。今後は、ホームページや院内掲示などで、院内感染についての対策を講じていることをしっかりとアピールすることも重要になってくるだろう(図5, 6)。

6. 健康観の向上

感染を未然に防ぐために運動や食事などで免疫力を高めることに関心が高まっている。その結果、人びとの「病気になるたくない、健康でいたい」という気持ち、すなわち健康観はいっそう高まっていくのではないだろうか。とくに、COVID-19の重症患者および死者は高齢者が多かったことから、高齢者の感染予防や免疫力に対する意識は高まり、寿命の延伸につながることで高齢化社会がさらに加速するかもしれない。

歯科においても、口腔内への意識は高まっている。前出の高屋先生の論文においても、アンケートに回答した1,500名のうち半数以上の方が、年に数回は歯科医院を受診していると答えた³。新型コロナウイルスへの予防策として口腔ケアが重要である、という論文もあり、今後はますます口腔への健康観が高まり予防歯科の需要が高まることが予想される⁴。

加えて、厚生労働省が5年に1度実施している歯科疾患実態調査⁵によると、乳歯および永久歯のう蝕・喪失歯数はすべて経時的に減少傾向にあることが示されている。また、8020達成者数・歯磨きの頻度・フッ化物塗布経験者はいずれも増加傾向にあり、

年々国民の口腔内への意識は高くなっていることは明らかである。健康観が高まると、歯科の中の領域でもニーズの変化が起きるかもしれない。予防が可能なう蝕や歯周病は減少していくことが予想され、それにともない欠損自体も減少していく。少子高齢化に加え、健康観が高まることで、小児のう蝕も減少していこう。一方で、高齢者を対象とした訪問診療などはますますニーズが高まる。また、先天的な要因である歯並びや親知らずなど矯正歯科、口腔外科などの需要に変化はないだろう。また欠損は減少するが、健康な歯を削りたくない・他の歯に負担をかけたくない、という理由でインプラント治療は今後増加するかもしれない。また、う蝕ではないが審美を目的とした修復治療やメタルフリー化も需要が高まることが予想される(表1)。

7. セミナーの形態の変化

新型コロナウイルスによって、今年予定されていたセミナーや講演会の多くが、中止または延期を余儀なくされた。しかしながら、歯科における材料や術式は日進月歩であり、アップデートを止めることはできない。そこで、webセミナー(近年ではウェビナーとも呼ぶ)へ移行しているスタディグループやメーカーも散見される。筆者が主宰しているスタディグループITDでは、毎月東京医科歯科大学で行っていた例会を今年度はすべてwebにて開催することを決定した。これにともない、webでの開催をSNS上で告知したところ、全国から参加希望が殺到



図 7 a
図 7 b

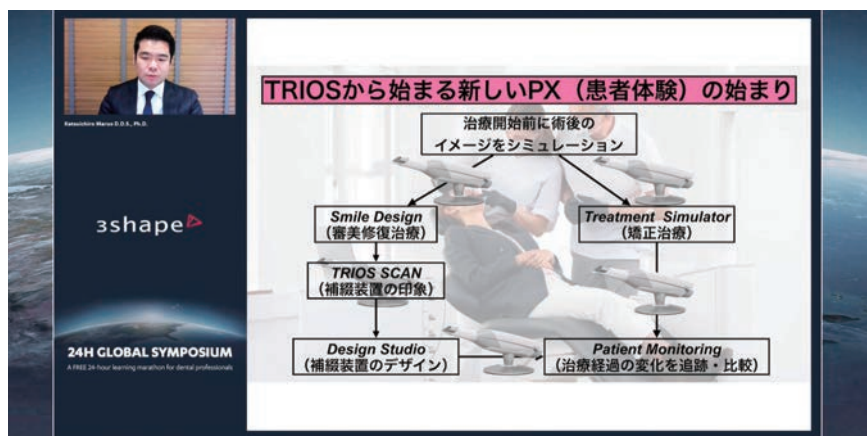


図 7 a, b 3 Shape 社が主催したwebセミナー“24H Global Symposium”. 世界中から約3,700名の登録があった。

し、昨年まで50名程度であった会員数は一気に160名に増加した。

また、口腔内スキャナをはじめとしたデジタル機器で著名な3 Shape社は、6月19～20日に“24H Global Symposium”をwebにて開催した。これは、24時間をとおしてデジタルデンティストリーに造詣の深いさまざまな国のスピーカーがリレー形式で登壇する、前例のないセミナーである。世界中の歯科医療従事者を対象とした大規模なwebセミナーとなり、約3,700名の登録があった。僭越ながら、筆者も日本代表として登壇させていただく機会に恵まれ、本セッションには400名の視聴登録があったと伺っている(図7)。

また、6月27～28日に開催された日本補綴歯科学会学術大会は、歯科では初の完全web上による学会開催が行われた。スライドが進まない、講演途中で

インターネット接続が切断される、音声クリアではない、といったトラブルも多くあったが、ほとんどが演者側の問題であり、今後は演者にもweb配信のリテラシーが求められる時代となる。

webセミナーのメリットは、場所の確保や場所代が必要ないこと(ただし、Live配信ソフトへの登録には有料版もある)、人数の制限がないこと、開催場所への移動がないことなどが挙げられる。今までローカルで開催していたセミナーが容易に全国あるいはグローバルレベルに昇華されるという点では、非常に大きなパラダイムシフトである。一方で、やはり実際の対面とは異なり、演者の表情や身振り・手振りといった臨場感には欠けることや、また実習などのセミナーは不可能であること、セミナー後の懇親会が困難であることなどから、従来の対面式セミナーの需要がまったくないわけではない。また、技術



おわりに

本連載では3回にわたって、新型コロナウイルス発生からのこれまでの経緯や、それに対する各歯科医院の対応、そして今後「withコロナ時代の歯科医療」がどうなっていくのかということについて、できるだけ時系列で、かつ事実に基づいて述べることに努めた。この新型ウイルスが人類にもたらした脅威は、人びとの生活を一変させ、これまでの常識を覆すような事態を引き起こした。私たち歯科医療従事者にとっても、今までなかったような対応に迫られ、診療体制にも変化が起きた。一方で、このコロ

ナ禍によって健康観が向上したり、デジタル化が加速したりするなど、あるべき方向へ加速化した面も否めない。コロナによって失ったことにクヨクヨするよりも、コロナによってもたらされた変化に全力で適応し、そのなかで患者さんの信頼を勝ち得るための歯科医療を模索することが、今私たちにできる最大の努力ではないだろうか。

状況が刻一刻と変化していくなかで、少し時期がズレてしまった内容もあるかもしれないが、その点をご容赦いただければ幸いである。本連載が、これから迎える新しい歯科医療に適応するために、少しでもお役に立つことを祈っている。

参考文献およびwebサイト

1. 厚生労働省. 自殺の統計：最新の状況. 警察庁の自殺統計に基づく自殺者数の推移等(令和2年6月19日). <https://www.mhlw.go.jp/content/202005-zantei.pdf> (2020-07-14閲覧)
2. ディレクターバンク. アフターコロナの消費行動はどう変化する？各社の調査結果まとめ：2020年6月版. [https://www.webtanguide.jp/column/surveyreport_aftercovid19/\(2020-07-09閲覧\)](https://www.webtanguide.jp/column/surveyreport_aftercovid19/(2020-07-09閲覧))
3. 高屋翔, 小山史穂子, 竹内研時. 特別寄稿 新型コロナウイルス感染拡大下における一般住民の歯科医院受診に関する意識調査. the Quintessence 2020 ; 39(7) : 56-61.
4. 花田信弘. 特別巻頭アトラス 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)における口腔清掃の関与. 二次性細菌性肺炎を防げ. the Quintessence 2020 ; 39(7) : 12-13.
5. 厚生労働省. 平成28年歯科疾患実態調査. <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/62-28.html> (2020-07-14閲覧)